

# 瑞穂区革新懇 2013年10月号 (発行=10/15)

○発行責任者=見崎徳弘: 名古屋市神前町1-68-2 (☎841-8302/メール:misaki3@f3.dion.ne.jp)

●2面: 消費税8%批判と臨時国会。●3面: 民商の自動車パレード/日本高齢者大会。●4面: 森英樹氏・小沢隆一氏講演。●5面: 小牧平和集会/「積極的平和主義」とは? ●6面: 福島の現状/敬老パス。●ブータンの旅。

## ● ストップ消費増税、阻もう、安倍内閣の暴走!

→ 重要法案目白押しの臨時国会=10/15~12/06(予定)。

### ◆安倍内閣の下、いのち・暮らし・平和の危機が。

10月も半ば。秋の気配も濃くなってきましたが今この国は安倍内閣の下で、私たちのいのち・暮らし・平和を脅かす問題が山積み。——①首相による「消費税8%」引上げ宣告と極端な大企業優遇策=公共事業のばらまきや企業特区、法人減税、労働者保護法の緩和・撤廃など、②介護・医療・年金など社会保障の連続改悪プログラム、③TPP交渉の聖域=コメなど最重要5品目「見直し」、④泥沼化する汚染水漏れをよそに、既成事実化する原発推進・再稼働、⑤沖縄へのオスプレイ配備強行、「2+2」協議による日米の軍事一体化など、きわめて重大なニュースが続いています。

### ◆ 憲法の空洞化、「壊憲」も狙われて——

一方、首相が「悲願」とする憲法「改正」は、そのハードルを下げる96条改定が世論の反対で挫折したため、当面は「解釈改憲」と「立法改憲」を先行させ、事実上、9条を骨抜きにして「アメリカと一緒に世界のどこにでも出かけて戦争できる国」にしようとしていると見られます。

「敵基地攻撃能力」保有や米海兵隊との一体作戦をうたう「新防衛大綱」中間報告(7/26 防衛省)、内閣法制局長官をすげ替えて狙う「集団的自衛権行使」容認などその一例であり、臨時国会にかかる日本版NSC=国家安全保障会議設置法や特定秘密保護法なども安倍流「壊憲」策動の一環です。

### ◆ 「秘密保本法」は賛成世論の方が多数派?

問題は、こうした安倍内閣の危険性が国民にきちんと知られていないことです。

特に特定秘密保護法に「賛成」の世論が「反対」

を大きく上回っている世論状況は重大。もしこれが臨時国会を通るなら「軍事・外交・スパイ防止・テロ防止」に関し国が「特定秘密」と指定する情報を扱う関係者ならびに家族・知人は徹底した監視下に置かれ、言論や報道の自由は奪われ、民主主義の土台ともいべき情報公開=国民の「知る権利」が大きく損なわれ、結果として戦前のような「もの言えぬ暗黒社会」を許す恐れがあります。

### ◆ 世論と運動で臨時国会を包囲しよう。

この15日から12月6日までの臨時国会は消費税引上げに関連する経済関連法案を中心に「成長戦略実行国会」などと言われますが、他方で安倍カラーがにじむこうした「壊憲」法案も狙われており、いのちも暮らしも憲法も平和も重大な危機にあると言わねばなりません。

しかし一方で参院選での共産党の躍進が示すように、安倍内閣の危険性を見抜く国民も増えています。しっかり学習し、周りの人たちに知らせ、「安倍の暴走は許さない」とする世論と運動を急いで盛り上げることが重要です。

<文責=見崎徳弘>



9/28 しんぶん赤旗1面。▲



## ● 8%なら廃業が続出。消費税上げるな! 一名古屋で民商・愛商連が自動車パレード=9/15。

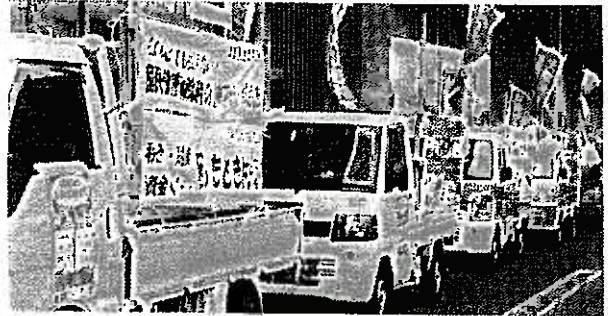
昭和天白瑞穂民商事務局次長 尾関雅美

台風 18 号が刻々と近づく 9 月 15 日(日)午後、空は灰色の雲が立ち込め時たまパラパラと小雨が降る中で、何十年ぶりの「自動車パレード」を行ないました。

午後 2 時過ぎから宣伝カー、ワゴン、軽トラ、ダンプが続々と集まること 100 台、参加は 150 人を超えました。熱田区南郊公園で「消費税増税反対」集会を開き、主催の愛知商工団体連合会(民商)はじめ、労働組合、生協、消費税をなくす会などが挨拶し出発。公園を出て六番町から北進、桜通りを右折、さらに大津通りを南進して金山まで約 1 時間半のパレードを行ないました。

これは「増税は 10 月に決断」としていた安倍首相が前倒して決めそうな状況だったため緊急に開いたのですが、「来年 4 月~8%」なら、今でさえ厳しい多くの業者が廃業に追い込まれたり、消費税が払えず借金を背負い込まざるを得ない事態になるのは必至。「何としても増税をストップさせるぞ!」の意気込みがあふれたパレードで、翌朝、中日新聞が写真付きで報道してくれました。

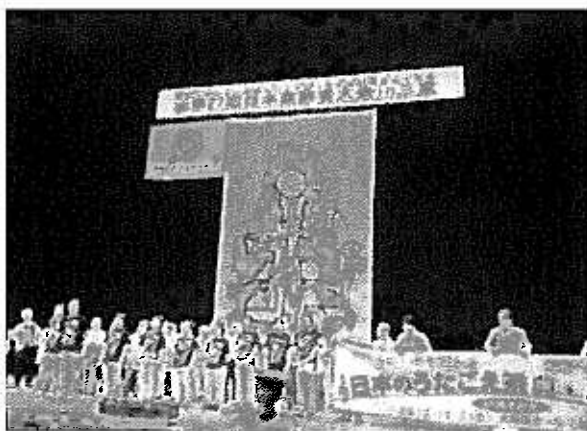
革新懇の皆さん、力を合わせて消費税増税をやめさせましょう。



## ● 「ひとりぼっちの高齢者をなくそう」

9 月 12~13 日、第 27 回 日本高齢者大会。

田中道代(惣作町在住)



▲ 津市で開かれた大会に2日間でのべ5千人が参加。

第 27 回日本高齢者大会が三重県津市で開かれ、9 月 12、13 日の 2 日間で延べ約 5000 人が参加しました。大会では「憲法を生き、誰もが安心できるまちづくり、国づくりを」をスローガンに、各地域で実践することを確認しあいました。

### ◆NHK「老人漂流社会・・・この町で暮らしたい」

記念講演はNHK報道局のチーフ・プロデューサー 板垣淑子さん。板垣さんプロデュースの高齢者が自ら死に場所すら決められない現実をリアルに見つめた今年 1 月放送の「老人漂流社会」では、一人暮らしで体調を崩し自宅にいらなくなった老人が



特養に入れずショートステイを転々と漂流する姿を追い、話題になりました（特養待機者は全国で42万人とか！）

これは、高齢化が急速にすすみ、安心して老いることができない日本の現状では誰にもあり得ること。この国を支えてきた高齢者が「尊厳」と「希望」をもって生きられる社会をどうつくっていくのか、考えさせられました。

板垣さんはまた、取材を通して知った「高齢者の居場所づくり、つながりづくり」をすすめている各地の実践も紹介され、「根本は国の施策をよくすることだが、待ってはられない。元気うちに、地域の力、組織の力をフルに生かして、今できる“人とつながる取り組み”をすすめよう」と訴えられました。まさに年金者組合のこれからの課題と感じました。

●「第15回あいち高齢者大会」（10月2日、市公会堂）で

### 森 英樹・名大名譽教授の講演「自民党改憲草案の問題点」を聴きました。



▲10/2、名古屋市公会堂4階ホールは満席。

森さんは6ページのレジュメと、現行憲法と自民党憲法草案を対照させた資料（抄）8ページとを用意され約1時間40分、講演。要所要所でダジャレも交えて聴衆の心を掴みながら話され、充実した時間を私たちに与えてくれました。

まず今回の「参議院選挙結果を読む」ことから入り、公約に改憲を明記した自民党が「圧勝」して国民的同意を取りつけた、という「物語」ができたと分析。次いで自民党改憲草案について、その前文、天皇、9条、人権、緊急事態や96条改定などの項

中住健二郎（内方町在住）

目を現行憲法と対照しながら詳しく問題点を指摘されました。さすがは憲法学者です。目からウロコの条文もありました。自民党改憲草案はまさに明治憲法への回帰であるばかりか、日米安保条約のもと、亡国の改憲草案になると思いました。

参議院選挙後の安倍政権の行なう暴走に次ぐ暴走は、目にあまりあるものがあります。森さんは、その日程を細かく挙げながらその事実を告発されました。そして、有無をいわせない強引なやり方のように見えるが、そこには彼らがかかえる矛盾も広がっていることを見ておく必要がある、とも指摘されました。

「押しつけ憲法」観にはアメリカ言いなりの対米従属との矛盾があります。歴史認識の誤りがアジアと欧米諸国から抗議や批判を浴びてもいます。こうした条件を視野に入れて、人々のいのちと生活を政府に守らせ、国家間の争いを軍事で「解決」させないように、いま、年寄りもがんばらねばと思いました。

### ●「今こそ憲法を学び、活かし、守ろう」／慈恵医大・小沢隆一教授が講演。

「参院選後の情勢と改憲阻止の展望」＝10/12「憲法改悪反対愛知共同センター」が学習交流会。

事務局 山形敦子（弥富町在住）

10月12日、労働会館で 憲法改悪反対共同センター主催の講演会がありました。第1部は「参院選後の国会情勢をふまえた 改憲阻止の展望」と題する

小沢講演で、はじめに「私たちのめざす運動路線は、憲法を学び、活かし、守ること」と強調・確認して講演をすすめられました。

小沢氏はまず各党の参院選公約で「憲法」がどう位置づけられているかを紹介しつつ、96 条改憲論をめぐる話や「治者と被治者との違い」に言及、自民党改憲草案が（「国民が権力者を縛る」という）憲法の基本原理を根元から変容させる危険をもつと語りました。

その上で氏は、自民党改憲草案について、①復古的・反動的な国家をめざす部分、②新自由主義の推

進をめざす部分、③戦争する軍隊・戦争する国をめざす部分、の3つに分けて分析して下さったのも新鮮でした。

第2部は参加者による活動交流。——何人かの発言がつついたあと、「九条の会も共同センターも革新懇も、設立の趣旨や性格は違うが、いずれは目的を一致させて共にたたかう時が来る」と締めくくりました。

## ●「ブルーインパルス反対!」——9/29 小牧「平和集会」に参加しました。

代表世話人 土井敏彦（初日町）



### ▲ 航空自衛隊小牧基地の機能強化反対!

自衛隊の基地が集まる小牧周辺で毎年開かれている「小牧平和県民集会」に今年も参加した。9月29日は幸い好天。会場の市之久田（いちのくた）公園では、昼からの集会なので混ぜご飯やすいとん、コーヒーの店も出て、空腹の私には何かと都合であった。主催は「実行委員会」。地元の労組、平和委員会、新婦人、民商、年金者組合、共産党などが参

加している。

今年のスローガンは、①ブルーインパルス飛行反対、②県営名古屋空港を平和な空港に、③オスプレイ配備反対・普天間基地撤去、④三菱重工の米軍機修理をやめさせ、航空宇宙産業は平和に限定、⑤九条堅持・安保廃棄、の5つ。9月1日には琉球新報編集局次長・松元さんを招いての事前学習会ももち、気を引き締めての集会であった。

年金者組合瑞穂支部の森下書記長も旗を持参して参加（私が持って行進）、自衛隊小牧基地正門までパレードを行ない、沿道の市民に訴えた。ただ名古屋市内と違い、車はひっきりなしだが、道を歩く人はほとんどなく、窓や玄関から顔出す子どもや吠える犬もなく、この点では何か物足りなかった。

日米同盟・集団的自衛権に突進する安倍政権に、一つひとつ丁寧に反対の意思表示をすることが大切と思う。

### ◆ シリーズ・憲法改悪の動きに思う ④

## 「積極的平和主義」とは何か?

橋本崇史（たんぼぼ保育園勤務）

先日、安倍首相は国連総会での演説で、世界の平和と安全に貢献する「積極的平和主義」を掲げました。国連平和維持活動をはじめとする集団安全保障に「より一層積極的な参加ができるように図っていく」とのことです。その一環として、集団的自衛権の行使を可能にしようとしています。

そもそも集団安全保障と集団的自衛権とは、言葉

は似ていますがその中身は全く別のもので、集団安全保障とは、多くの国々が互いに協力し合い、そもそも紛争が起こらないような国際社会の構築をめざすものです。これに対して集団的自衛権は「武力攻撃を受ける可能性」を想定して、ある国家が武力攻撃を受けた場合に直接に攻撃を受けていない他の国が協力して共同で武力攻撃に対処することです。

集団安全保障が、世界の国々への信頼をベースにしているのに対して、集団的自衛権は「どこかの国が攻めてくるかもしれない」という不信感から出発しています。「正義と秩序を基調とする国際社会を誠実に希求」する憲法9条をもつ日本が、どちらの立場に立つかは明らかです。

日本国憲法前文には、「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」と書かれています。日本国憲法に立ち返って、紛争の火種となる貧困や格差、差別をなくす取り組みを行なうことこそ「積極的平和主義」なのではないでしょうか。

## ● 「3.11」から2年半——福島を厳しい現実を聴いて……。

「連続憲法講座⑤」の廣田弁護士の話はショックでした。

事務局長 尾鍋昭彦（本願寺町在住）

9月28日（土）、労働会館で「福島原発事故からわが国のあり方を考える」と題する廣田次男氏の講演を聞きました。廣田氏はいわき市に事務所をもつ弁護士であり、福島原発被害弁護団代表でもありません。

事故を起こした第一原発、その南にある第二原発のある地域、双葉郡は福島県内でも経済的には極めて貧しい地域で、この貧しさが大量の原発マネーに頼り、原発を推進させたということです。原発推進の人たちは日頃から安全神話を振りかざし、これは教育にもあらわれていました。

2003年の双葉郡の【原子力を考える日】の作文発表では富岡町の中学生が次のように述べていました。「原子力発電所は富岡町の誇りです。原子力発電所のある町の住民として、原子力について正しい知識を身につけ『原子力発電は危険だ』という固定観念を捨てることが大切だと思います」（広報紙「アトムふくしま」）。また、ポスターには「ぼくたちのみらいをはこぶ原子力」と描き込んだものが文部科学大臣賞を受けました。——廣田氏は、教育にあらわれた安全神話教育は、戦前の軍国主義を煽る教育と酷似していると述べられました。

原発事故が起きた数日後に「原発に依存せざるを得ない」と述べた楢葉町長、「100mmツールまでは安全」といい放つ放射能アドバイザー、「放射能はコントロールされている」と明言する安倍首相など事故の後でも、新しい安心感をうえつけようとする言動が目立ちます。

こんななかで、福島の人たちは、除染作業も形式的で住宅の近くの森林には手をつけず、隣家は空家になっているから作業をしない、汚染土壌を運び出す所がないなど、不安と疑問が渦巻いているということです。

また、集落のなかのコミュニティが壊され、治安も不安で、将来の展望も持たなくなっています。賠償基準もあいまいで道路一本で分断される、東電は過失責任を認めようとせず、わずかな慰謝料で事を終えようとしています。これらもまた、住民を分断させています。

\* \* \* \*

講演を聞いて、福島の人たちは、私の知らないもっと厳しい現実さらされていることに驚かされました。「過失責任を東電に認めさせる粘り強い運動の積み上げが必要」と強調された廣田氏の言葉が胸に重く残る講演会でした。

■■<敬老パスが危ない？>■■

●敬老パスは値上げせず、存続・拡充を！

→ 9/19 実行委員会が河村市長に要請。



▲1万筆の署名を前に、河村市長は「……」。

<投稿> 9月20~25日(5泊6日)、

## 国民総幸福量(Gross National Happiness) が 国策の柱となっている国、ブータンに行ってきました

水谷咲子

ブータンはインドの右上にあり、中国に接しています。面積は九州と同じくらい。人口は72万。首都はティンブー。民族はチベット系・東ブータン先住民・ネパール系で、言語はゾンカ語。宗教はチベット系仏教とヒンドゥー教。政治は「立憲君主制」で元首は震災後の子ども達を励ましてくれたワンチュク国王さんです。

◆ 1616年がブータン国家の起源とされています。その後チベットのダライラマ政権との抗争がありましたが、1909年に現国王ワンチュク家が支配権を確立、71年には国連の128番目の加盟国となっています。2006年に5代目ワンチュク国王となり、07年には初の普通国政選挙が行われ、08年には新憲法を公布、立憲君主制へ進んできています。

◆ 医療費と教育費は無料の国です。旅行者がアクシデントで受診しても無料とのこと。今回の旅行はブータンの首都ティンブーとパロの2か所。バンコク経由でパロ国際空港に入国。美しく彩られた木造の寺院を思わせる空港が素敵なたたずまいで迎えてくれました。

◆ 見学した伝統美術院では仏教文化を伝承していくための壁面装飾の描画、木工作、粘土製作、刺繍などのスキルを高める技術を磨いていました。期間は3年間。若者たちはとてもいい顔して取り組んでいました。日本から留学性の女性が2人いました。「刺繍に魅せられて」と言っていました。

◆ パロ谷のゾンも綺麗でした。川にかかった吊り橋を渡るとゾン(寺院と行政の機能を持った建物)が静かに立っていました。木造で壁は白く屋根や壁に色が付けてあります。そして独特の窓の形状です。この窓は市民が新しく家を建てる時につけることが義務付けられているとのこと。

◆ 街のバザール(市場)は行政が管理している建物に農家の人々が取れた野菜を並べて売りますが、素朴な野菜などが並んでいました。とうがらし、ナス、キュウリ、トマト、かぼちゃ、チーズ、パタ

ー、ウインナーなどなど。料理の仕方が違うけれど日本の野菜たちと同じでした。バスで走る草原にも、コスモスや菊が咲いていました。

◆ ティンブー市内のメモリアル・チョルテンは3代目国王が建立した3階建の仏塔です。印象的だったのは、その周りを一般市民が1日中ゆっくりと時計回りに参拝する姿です。ガイドの説明では、「願い・慾」ではなく、「過ちを反省し、感謝」の気持ちを呟くのだそうです。

◆ ブータンの伝統的「石焼風呂」に入りました。浴槽の外で石を熱し、熱した石を浴槽に入れてくれます。シュワ〜とすごい音がしてつながっている内部の湯音が上がるのです。浴槽には、美しい花とヨモギの葉っぱが浮かべてあってワイワイ騒いで入りました。

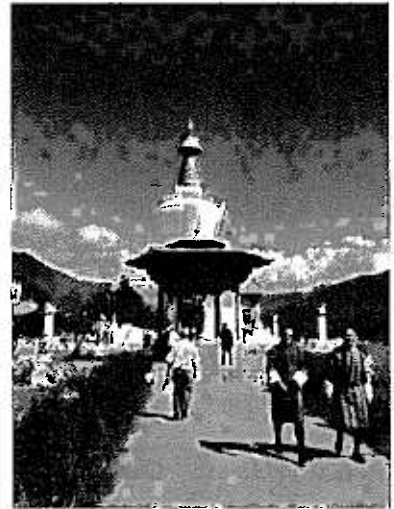
◆ 旅行した日がブータンの祭日(9/22安雨居)を挟んでいたため、アーチェリーの大会や、寺院への参拝、そしてバザールの開催と人出が多く賑わっていました。街の人や子ども達はとても親近感を持ち、私たちの車に手を振ってくれたり声をかけてくれます。4,5歳の子が「Welcome!」と言ってくれました。学校に行く子ども達は、皆民族衣装(王様が来ていたような)を着てランチボックスをもって学校への道を歩いていました。◆ 動物、すべての生き物と共生する思想のもと、犬はすべて野ら犬で道路を自由に歩き、寝そべっていました。

◆ 人は幸せになるために生きる。生きている。そのことを国是としている国のほんの、ほんの上っ面しかみてない。そして「幸せとは何か?」という哲学的な問答もありますが、小さな国ブータンは医療費・教育費は無料で、夕方5時ごろには仕事を終え、残業はしない——信号のない街の風情や人の動きにタイムスリップしているような錯覚を覚えました。コンビニと自動販売機が立ち並び日本のような近代化へ進まないで、と願いました。 **写真は次ページ**

■短歌■ どうぶつに／限りなき愛／注ぐ国／子子  
孫孫の／思想が根付く  
孫と行く／しあわせの国／ぶーたんに／負けず  
私は／しあわせものだ <以下2首は割愛>



水谷暎子さんのブータン旅行(9月)のスナップ(いちばん左=パロ谷のソン)。



## 〈当面の日程〉

- 10月18日(金)・年金者一揆 13:30~ 栄小公園(県芸術劇場の東、東海TV・テレビアの西)
- 10月19日(土)・反貧困キャラバン集会「取り戻せ!生存権~人間裁判から学ぶ」 13:30~ 港湾会館
- 10月20日(日)・共産党市政報告会「河村市政を考えるつどい」(山口市議) 13:30~生涯学習センター
- 10月22日(火)・瑞穂区労連 定期大会 18:30~ 東海共同印刷 4階会議室
- 10月23日(水)・瑞穂区革新懇 事務局会議<12月の「総会」に向けて> 19:00~ 尾鍋宅・ひよこ
- 10月25日(金)・第18回あいち機関紙・宣伝学校(講演=毎日記者・明珍美紀) 19:00~ 労働会館本館
- 10月27日(日)・子どもたちに安心な未来を手渡す会「福島被災地視察・交流ツアー」(~28日)  
 ・福祉予算削るな10.27県民集会 10:00~ 若宮広場(11:00~ パレード)  
 ・「知る権利奪うな、監視社会作るな」秘密保全法反対、市民集会 13:30 東別院ホール
- 10月30日(水)・敬老パスの存続を考える会第3回学習会(市会議論の前に) 13:30~ 新栄・民主会館  
 ・名張毒ぶどう酒事件愛知守る会総会(天鎮さん他) 18:30 名駅前ウインクあいち1101
- 11月02日(土)・地方自治(市町村合併と道州制)学習会:阿智村長、二宮厚美氏ら 13:30~ 労働会館
- 11月03日(日)・憲法公布67周年県民のつどい(姜尚中「東アジアの平和と九条」) 13:00~ 市公会堂
- 11月05日(火)・瑞穂区すすめる会 代表者会議 18:30~ 名プロ会議室
- 11月06日(水)・革新県政の会 学習会「県民の暮らしと経済を考える」(大木一訓) 18:30 労働会館
- 11月09日(土)・映画「モンサントの不自然な食べ物」15時と18時~ 本山生協(申込み☎:832-1346)  
 ・みずほ九条の会 「9の日」定例宣伝 11:00~12:00 桜山・市大病院前
- 11月10日(日)・原発ゼロを永遠に(3団体共催)名古屋アクション 13:00~ 若宮広場(デモ14:00)
- 11月11日(火)・瑞穂区すすめる会、原発撤退「11日」定例宣伝 18:00~19:00 新瑞バスターミナル
- 11月14日(木)・「地域総行動」7:30~新瑞・桜山・区役所・運動場西・堀田/8時リハセン/17時~新瑞
- 11月16日(土)・はたらく女性の中央集会 in 愛知、分科会(全体会=17日) 12:30~ ウインクあいち  
 ・全国革新懇交流会 in 大阪(地域・職場・青年) 13:30~堺市民会館(~17日=エル大阪)  
 ・九条の会 全国交流集会(柳沢協二・浦田一郎氏ら) 10:30~ 日本教育会館
- 11月18日(月)・日中友好条約35周年 北京風雷京劇団なごや公演(前売5千円) 18:30~ 市公会堂